

積水ハウスの サステナブルビジョンと行動計画

積水ハウス株式会社

2005.04.21

サステナブル宣言

『積水ハウスは持続可能な社会実現のために
環境・経済・社会・住まい手のバランスの取れた
目標を持ち経営します』

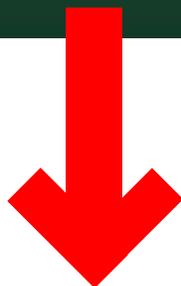


サステナブル宣言行動計画1
今できることを確実に
『京都議定書遵守行動：
既築住宅を中心に居住段階の
CO₂・20%削減を推進』

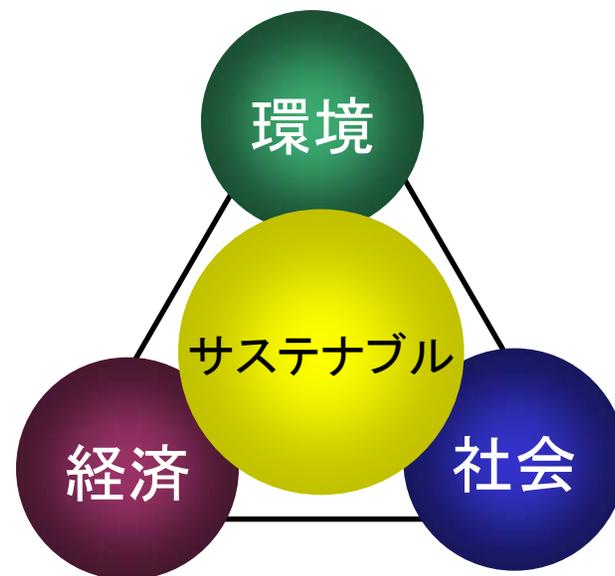
サステナブル宣言行動計画2
次の時代を見据えて
『サステナブル研究技術開発』

【サステナブル（持続可能な）企業であるためには】

これからの企業は利潤を追求するだけでなく、環境、社会にバランスよく配慮した経営が不可欠



長期にわたり市場で信頼され、愛され必要とされる企業へ



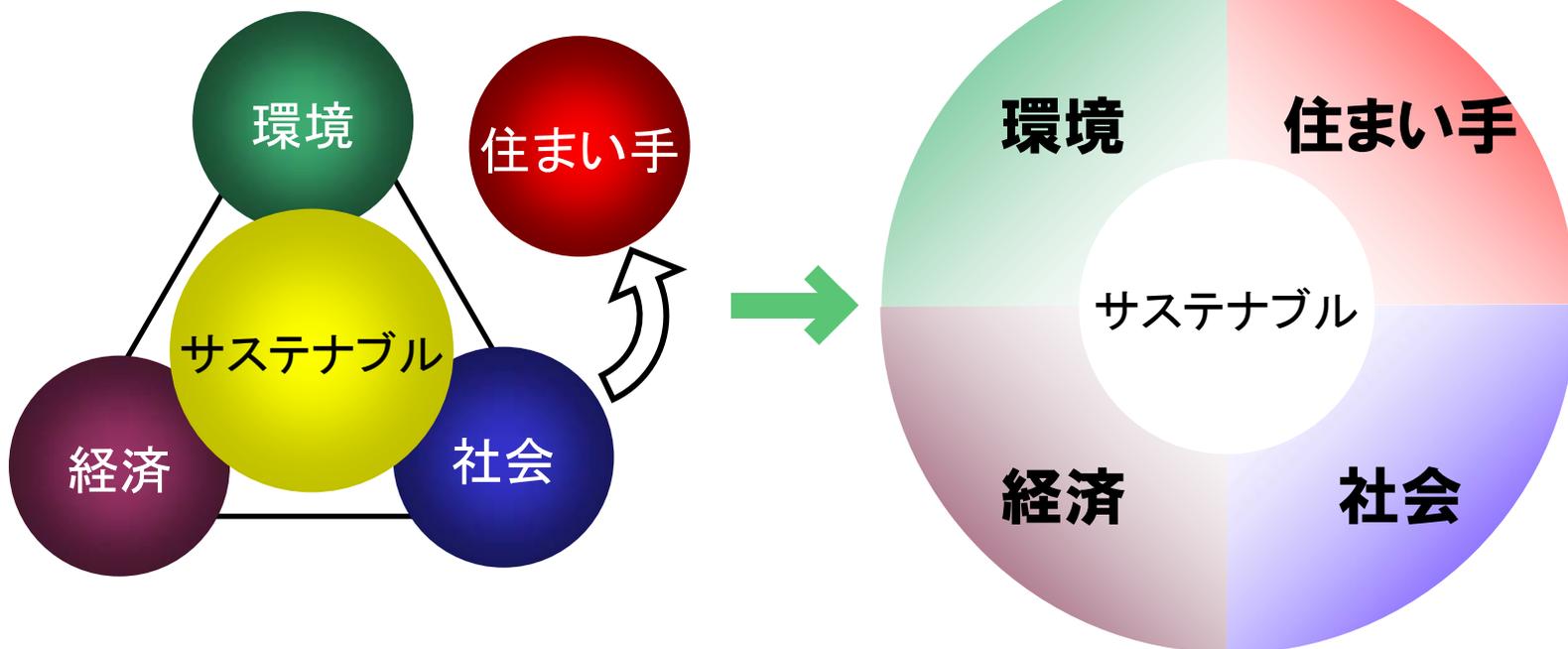
トリプルボトムライン

「環境」: 地球生態系保全

「経済」: 健全な経済循環

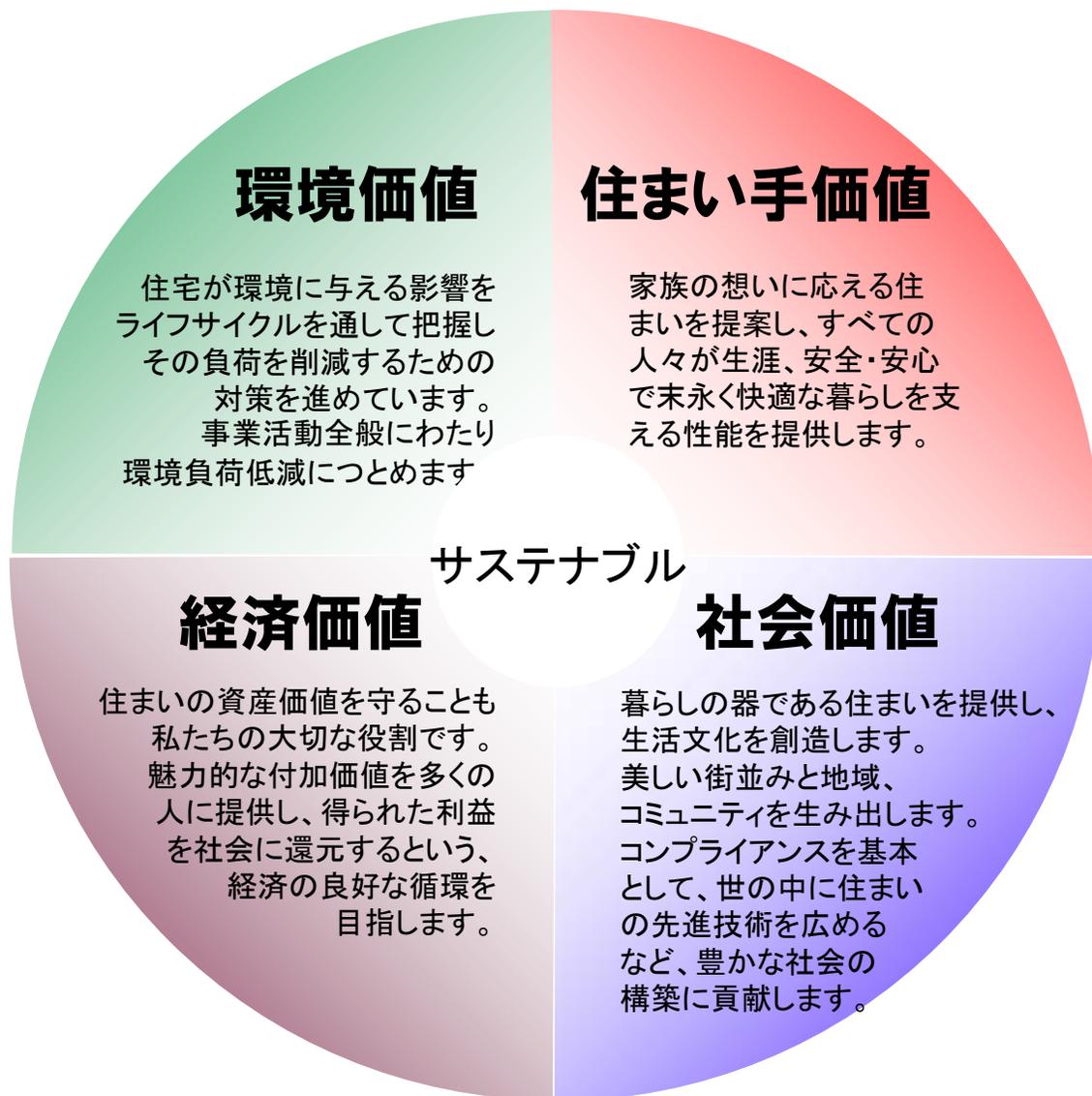
「社会」: すべての人の
ニーズを満たす

【積水ハウス独自の視点で考えるサステナブル】

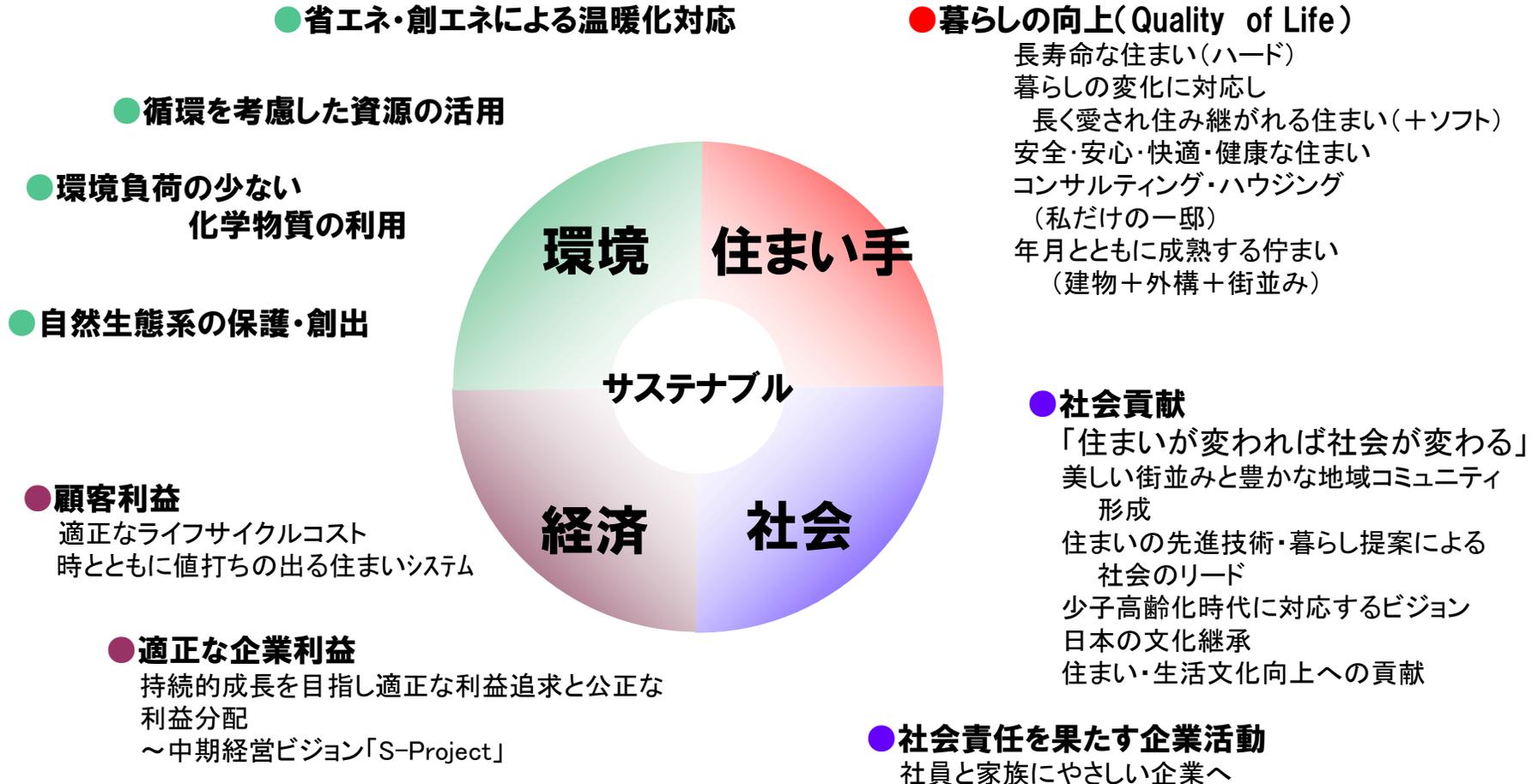


生活と暮らしそのものを提供している企業であるため、「社会」の中でも重要なステークスホルダーである「住まい手」を独立

当社は4つの価値からサステナブルを捉えます



4つの価値軸で目指すもの



積水ハウスのビジョン

＝最終的に到達すべき持続可能な社会における、積水ハウスのあるべき姿
。。。50年後、100年後にはこんな企業として生き残っているという目標

持続可能な社会とは、地球生態系本来のバランスを基本とし、
将来にわたってすべての人々が快適に暮らせる社会のこと。
積水ハウスはお客様にご満足いただける住まいの提供を通じて
持続可能な社会の構築に寄与するとともに、
その社会の中で暮らしの提供をリードしつづける
「住環境創造企業」をめざします。

【環境と健康・快適を両立させる技術】

・省エネ・防災住宅が
省エネ大賞受賞

2005

2004

・ハイブリッド換気システムⅢが
省エネ大賞受賞

2003

・次世代省エネ
戸建標準化

2000

・戸建住宅における
断熱サッシの標準化

1995

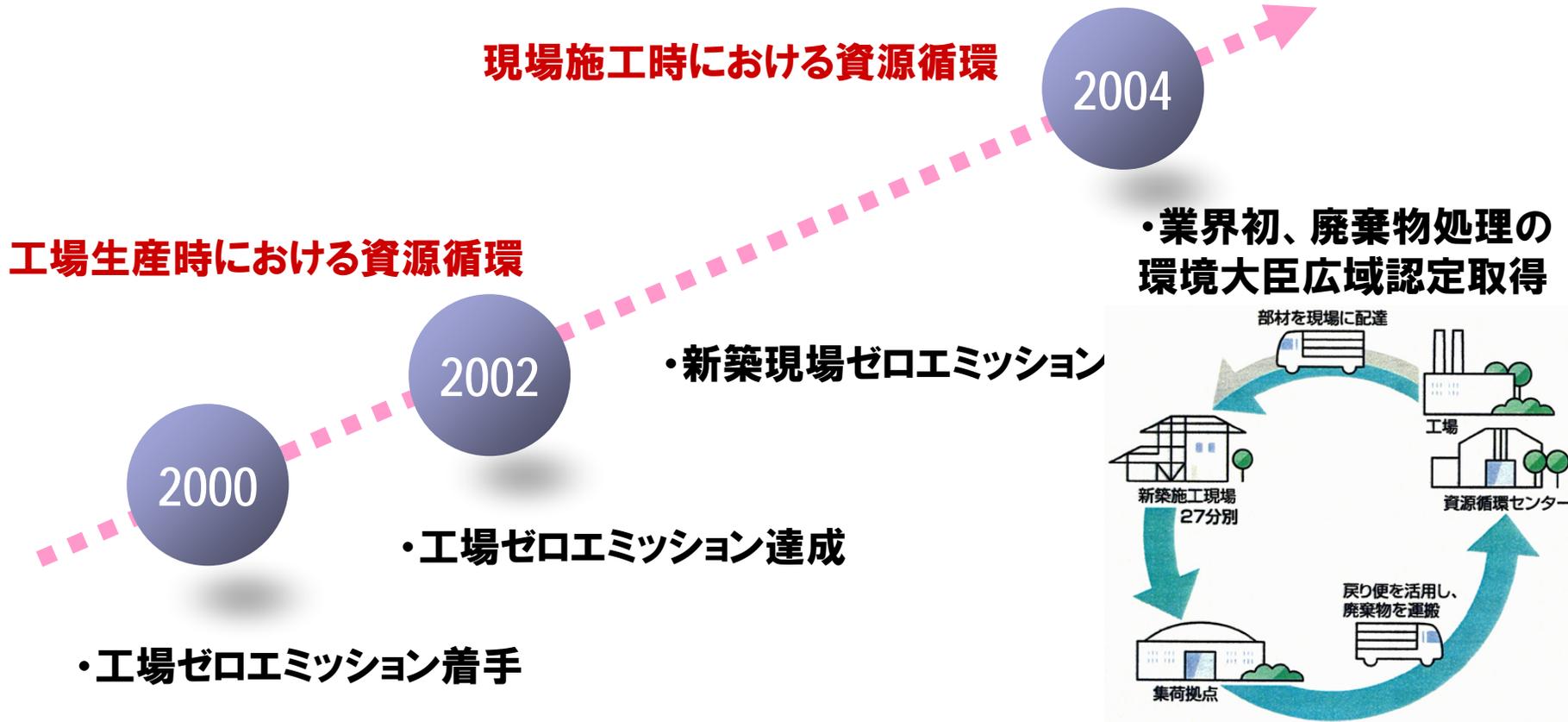
・主力商品における
高性能ペアガラスの標準採用

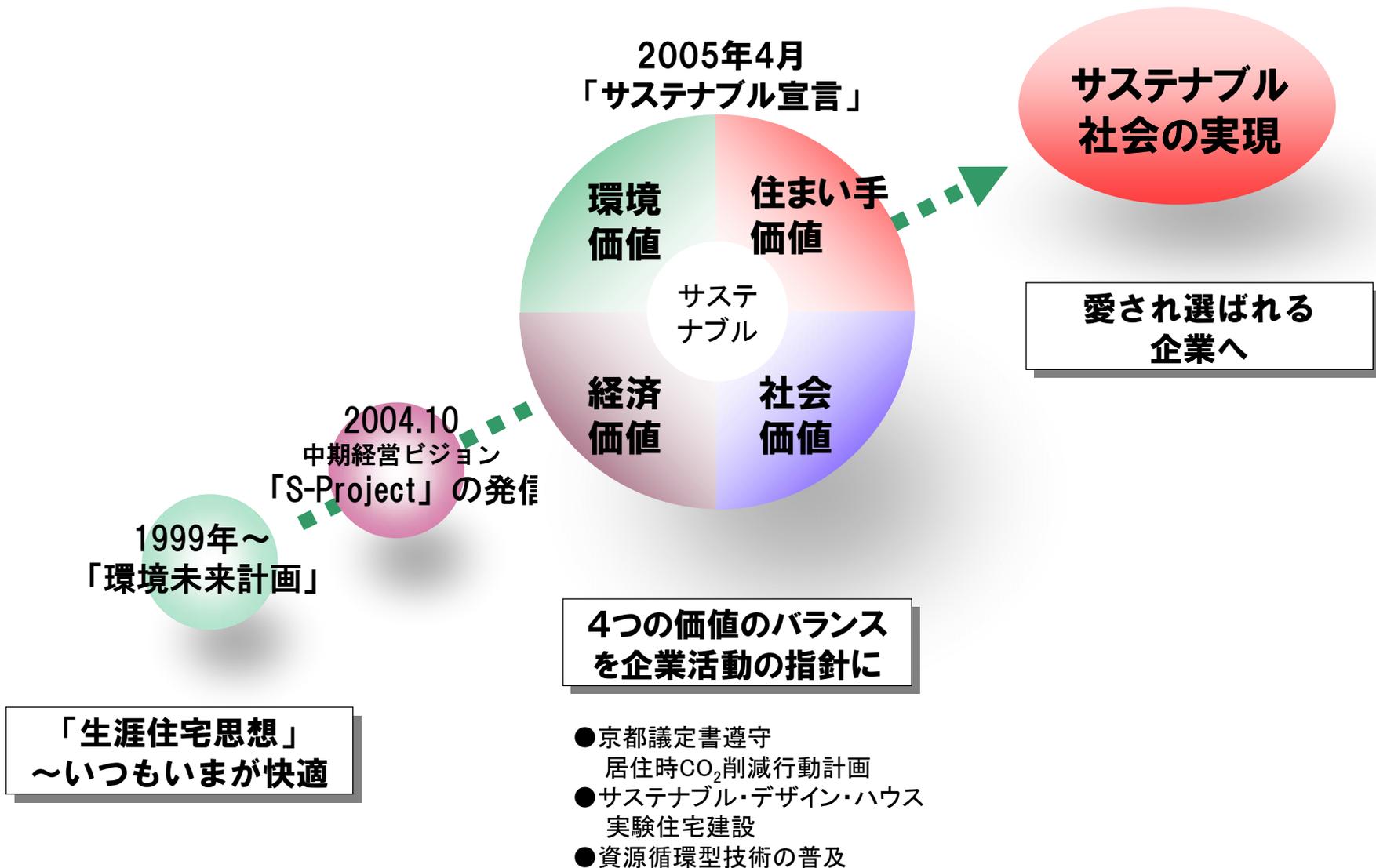
1982

・パッシブソーラーハウス発売



【資源循環を考えた企業取組み】





**サステナブル宣言行動計画1
今できることを確実に**

**京都議定書遵守行動：
既存住宅を中心に、居住時の
二酸化炭素排出量20%削減を推進**

京都議定書遵守において 民生部門の省エネ推進は国家的課題

家庭部門では、2010年には1990年度比で34%の二酸化炭素排出量増加が見込まれます。

新築住宅の省エネは進みつつあるが 既存住宅の省エネ化は遅れています

新築戸建年間37万戸(平成16年、国土交通省)に対して、
住宅ストックは2648万戸(平成15年、総務省)、**ストックの対策が重要です。**

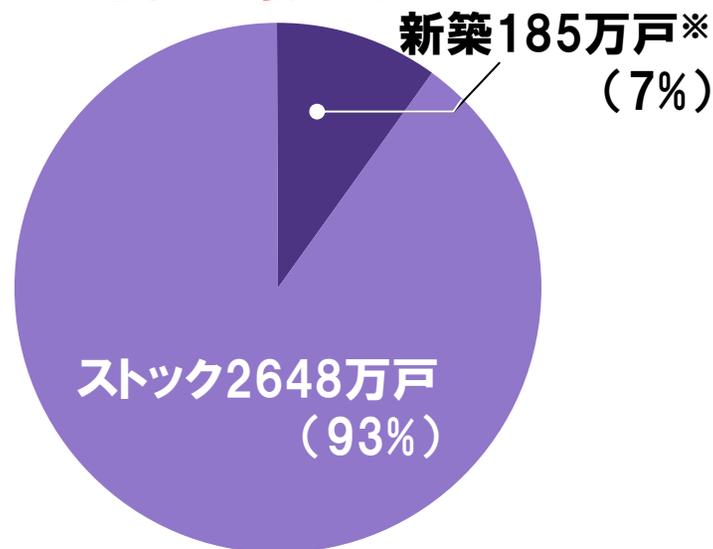
**住宅省エネ化で
温暖化ガス削減**
経産省「21万ト」試算

経済産業省の研究会は、既存住宅に省エネルギー改修を加えることで、二〇一〇年の温暖化ガスの年間排出量を現状より二十一万ト減らせるとする報告書をまとめた。天井への断熱材導入や消費電力の少ない空調設備への切り替えを促すため、投資額を低く抑える改修手法の普及が必要だと掲言している。

日本は二月に発効した京都議定書で、二酸化炭素など温暖化ガスの排出量を二〇〇八年―二〇一二年に平均で一九九〇年比六%削減する義務を負っている。

三月末に公表する報告書では、賃貸マンション、分譲マンション、戸建て住宅の形態別に対策を掲言。たとえば分譲マンションは、省エネルギー支援サービス(ESCO)と呼ばれる新しい手法の導入が有効と指摘している。ESCOは省エネ機器の導入企画から工事、運営まで一括して請け負うサービスで、少ない投資で高い省エネ効果が得られるとされる。

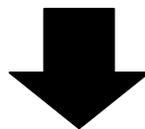
賃貸マンションは、業界団体に対して省エネ改修を促したことを表示する制度を立ち上げるよう掲言。戸建て住宅についても、機器メーカーに省エネ機器の情報提供を強化するよう求めている。



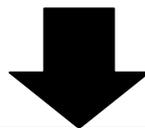
日経新聞2005年3月27日

※新築は2010年までの5年間の推計
(37万戸×5年)

『サステナブル宣言』の具体的な目標として
『アクションプラン20』を設定します



アクションプラン20は京都議定書遵守に対応し
**『当社の既築住宅を中心に2010年までに、お客さまと共に
住まいの二酸化炭素排出量20%削減を目指します』**
を柱とし、「節水、防犯、防災」などの幅広い項目を含みます。



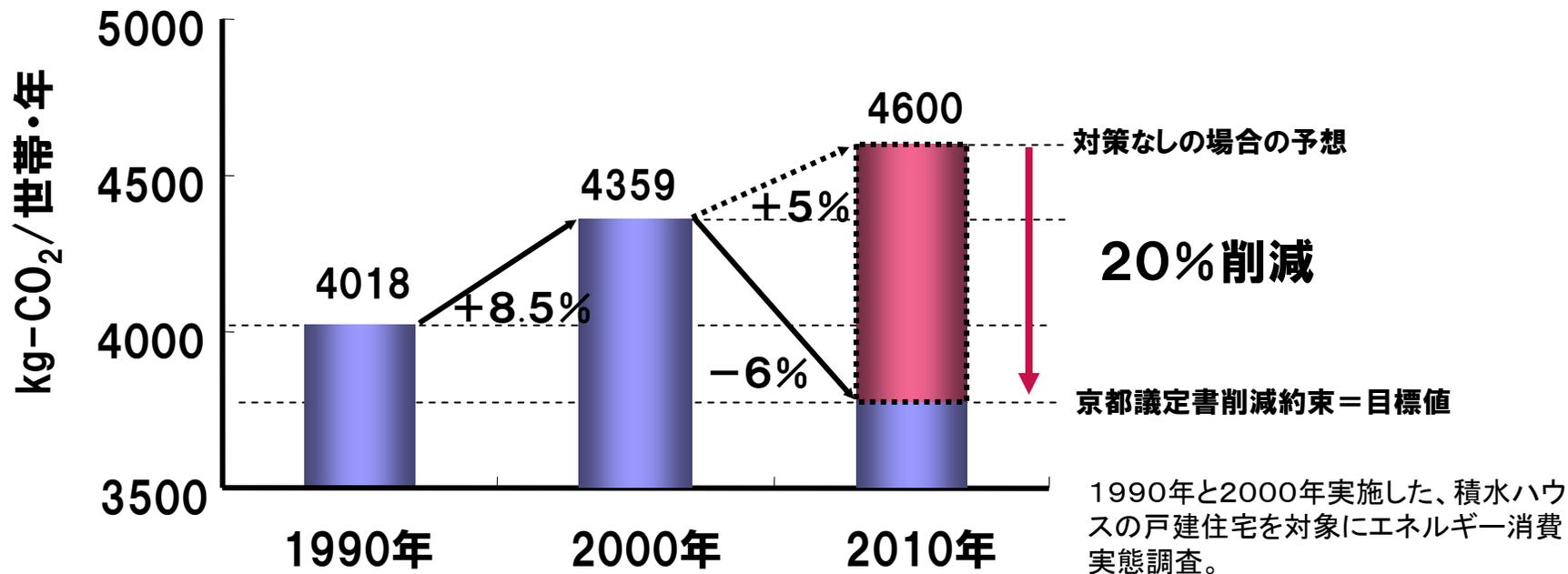
アクションプランは、今後より高い目標に向かって
アクションプラン30、50と進化する予定です。

**トップメーカーとしての責任：
国内最大の住宅供給者(戸建累積70万戸)**

**工業化住宅のメリット：
断熱リフォームの技術を確立している**

**リーディングカンパニーとしての市場誘導：
普及の遅れているペアガラス、高効率給湯器などを
コスト吸収・標準採用し普及を加速**

当社住宅の二酸化炭素排出量の推移と目標



- 1990年代に建設された住宅は2000年には二酸化炭素排出量+8.5% (当社調査結果)、2010年にさらに約5%増加(当社予測)。
- 断熱リフォーム、省エネルギー機器導入により、二酸化炭素排出量を1990年比で6%削減(2010年予測から20%削減)を目標。

【当社既存住宅～リフォーム】

- ・省エネリフォームの積極提案

（断熱リフォーム＋高効率給湯器＋太陽光発電システム採用など）

- ・70万戸のお客さまに行動して頂くために、省エネリフォームに特別価格を設定し、積水ハウスリフォーム株式会社で展開します。

【新築住宅】

- ・二酸化炭素排出量削減20%となる仕様・設備を標準化します。
- ・太陽光発電システムの提案を強化します。
- ・省エネルギー機器導入のコストアップを吸収し普及を強化します。

【コンサルティングの実施】

- ・リフォーム、新築共に、わかりやすい提案書を発行し、この中で省エネルギーや節水による水光熱費削減効果を示し、お客さまにメリットを理解して頂き省エネルギーを推進します。

【二酸化炭素排出量削減20%標準設定と効果をもてる提案の組み合わせです】

コンサルティング全体の枠組み

大切に使う

(使う量を減らす工夫)

目標達成のための標準化

・次世代省エネ(実施済)

- ・高断熱による負荷削減
- ・日当たり風通しのよい設計
- ・浴排水リサイクルシステム
- ・高効率照明
- ・温水洗浄便座(節水含む)
- ・食器洗い機(節水含む)
- ・省エネ型冷蔵庫
- ・省エネ型洗濯機

上手に使う

(効率の良い機器の導入)

目標達成のための標準化

・潜熱回収型ガス給湯器
・ヒートポンプ給湯器

- ・高効率エアコン
- ・ガスコージェネレーション
- ・(燃料電池)

自然の力を使う

(エネルギーを作る)

普及促進

・太陽光発電システム

エネルギーを選ぶ

- ・オール電化住宅
- ・ガス併用
- ・光熱費コンサルティング

※標準化は新築を示します。リフォームは総てオーナーさまに合わせたコンサルティング提案です。

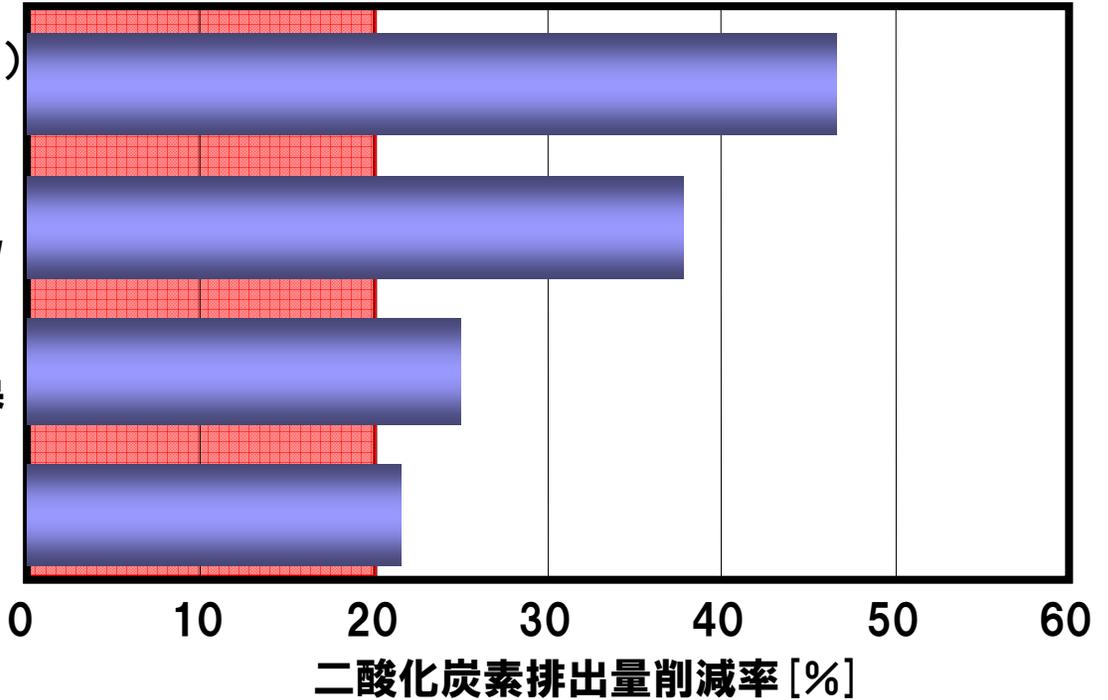
【断熱リフォームと省エネ機器の組み合わせで達成】

断熱（ペアガラス+天井・壁・床断熱）
高効率エアコン+太陽光発電3kW

断熱（ペアガラス+天井断熱）
+HP給湯器+太陽光発電3kW

断熱（ペアガラス+天井断熱）
+HP（ヒートポンプ）給湯器

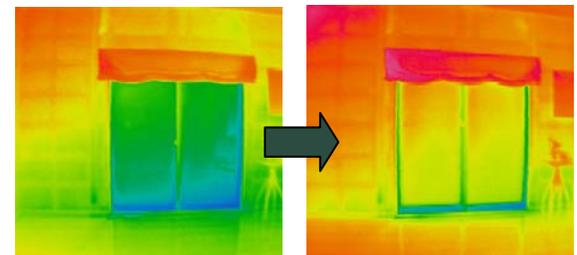
断熱（ペアガラス）
+潜熱回収型給湯器
+省エネ型温水洗浄便座
+省エネ型食器洗い機



断熱リフォームの効果
を実験で検証



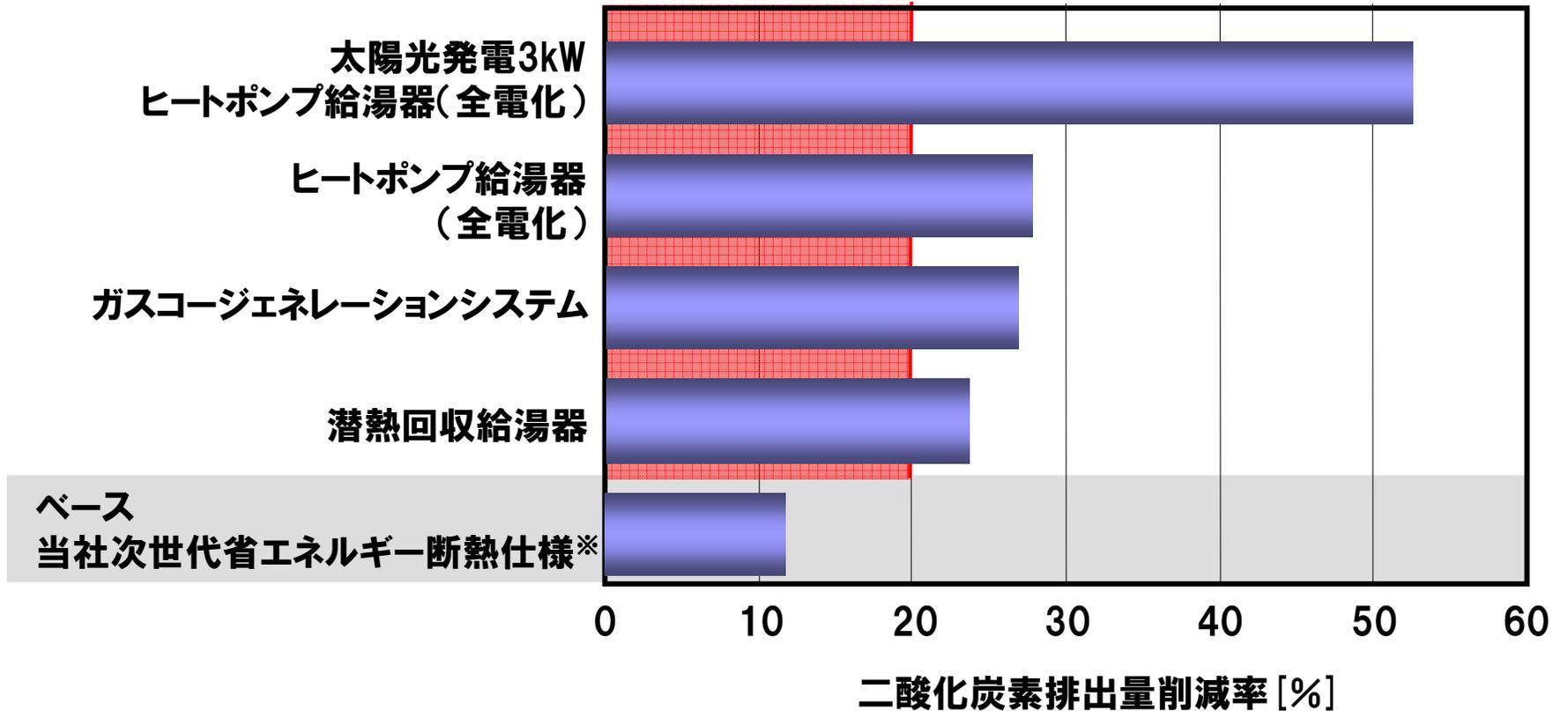
人工気象室における25年前の
住宅を使った断熱リフォーム
検証実験



リフォーム前
単板ガラス

リフォーム後
遮熱断熱ペアガラス

【次世代断熱・高効率給湯器で二酸化炭素排出量削減20%達成可能】



※当社次世代省エネルギー断熱仕様は、一般の新省エネルギー断熱住宅に比べ冷暖房負荷の33%を削減、建物全体では冷暖房以外のエネルギー消費があるため約10%

**サステナブル宣言
行動計画2**

**～サステナブル社会構築に向けた
新技術研究開発の推進～**

【サステナブル・デザインハウス・プロジェクト】

- 当社が考える次の時代のサステナブル実験住宅として建設・実証を開始します。

【資源循環型技術開発】

実証評価段階に入った新技術

- 廃ガラス利用建材
- 地下水利用冷暖房システム
- 木粉混入再生樹脂
- エネルギー・モニターシステム

**今後も、新しい技術開発や暮らしの提案を
はじめとした住まいづくりを中心に、企業活動
全般にわたり、サステナブルな取組みを
積極的に行っていきます。**

**積水ハウスは
お客様にご満足いただける
住まいの提供を通じて
持続可能な社会の構築に
寄与するとともに、その社会の中で
暮らしの提供をリードしつづける
「住環境創造企業」を
めざします。**